

文芸 さくらがわ

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】
妻と来てドナウに遊ぶ通し鴨

小林 啓治

我が思慕も芥も流す梅雨出水

萩原 勅彦

螢火や青さに暮れし山河縫ふ

藤田 凡鐘

鉄線花夕べの彩を愛しめり

小林 フク

ばら咲いて母の木椅子に母のかげ

三代 みちよ

休み田に水張ってある花菖蒲

渡辺 いし

変わりゆく日々おだやかに新茶くむ

入山 ひろ子

【あろ】
齢古り昭和も遠し額の花

若色 寿美女

ゆつくりと登る山道栗の花

金田 とう女

さみだれや小川太りて何時か海

永瀬 ちい

時の日や遅れくせあり掛時計

細谷 充女

いつの間に余震にも馴れ梅は実に

萩原 きしの

【やまと早蕨歌会】
山合の沼に舞い降る水鳥のついで泳ぐ水
温む春
笠倉 仰雲

何となく浮かびしままに今日も亦日記の如く詠みつづる歌
木藤 とみ

新緑の間の間に見える朱の花にいつか世に出た蝶一つとまり
佐藤 悦子

飯碗を支える力も失せし今 まだいちめるかパーキンソン病
田中 きみ

母の日に離り住み居し嫁より必ず届くまごころの花
中原 すみ子

成行きを耳癢となりやり過ぐすに今度ばかりは地震には聡し
中島 龍子

点滴にひたすら耐えきし夫の顔 頬ほの紅きは癒ゆる兆しか
北条 正子

路のとうまぶしい顔して「こんにちは」千の風なる夫と摘みおり
皆川 米子

大地震に還らぬ母に書く文に疲れ寝入りし幼けき孤児は
高久 住人

【茂山俳句会】
先行きの見えぬ原発さみだるる
海老沢 静夫

忽ちに瑞穂の国の植田かな
大関 くに

麦秋の風単線へ乗り込めり
井坂 洋子

子等の列とびとびに来る麦の秋
海老沢 幸子

マネキンの腕を抜かれて更衣
宮本 芳江

倒壊の石塀なんぞつつじ咲く
植田 祥雲

ためらひをふつきつて今夏の蝶
鈴木 ノブ子

貧しきは貧しきままに更衣
松崎 いま

マスカラをつけし瞳に新樹光
君島 真理子

麦の秋旧街道のなんでもや
吉原 秀子

筍煮灰汁抜かずの男料理
金子 弘毅

山門の一隅照らす著莪の花
笠倉 陽子

買ひ過ぎしこと悔やみつゝ汁の帰路
田崎 信子

蛙鳴きのどのひびきは水の輪に
鶴見 菊江

麦秋や菜の花色の帽子行く
竹林 てる

馬も牛もゐる世となり麦の秋
飯山 昭

俚謡

【さくら俚謡会】
素肌浴衣に素足の草履恋の小路は夕あかり
つく志 輝美

汗を流して仕事が終わるや冷えたビールで夕涼み
岩瀬 きみ子

月を宿した棚田のイネに欲しい臨月出穂の水
田 哲人

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ